

毎日新聞 2021.02.13 東京朝刊 13頁 読者面 (全855字)

◆今井（いまい）むつみさん

（岩波新書・968円）

◇日本語の枠組みで考えない

英語学習の指南書が数多く出版される中、昨年末の刊行以来、新書の売り上げランキングで上位に名を連ねる。著者は英語学者や英文学者ではなく、認知科学が専門の慶応義塾大教授。人が言語を習得するしくみや、心や脳の働きに注目し、英語の学習法そのものを見直したのが特徴だ。“歯ごたえのある”例文も少なくないなど「（英語学習書として）初心者向けではないはずだが、反響の大きさに驚いた」と笑顔で語る。

言葉の習得で重要だと強調するのが、ある事柄を認識する思考の枠組みである「スキーマ」という概念だ。友人と外食する時、メニューを見ながら「早く選べよ」と言っても「早く選定しろよ」とは言わない。「選ぶ」と「選定」を自然と使い分けるような、母語に対する複雑で豊かな知識もスキーマだという。

この本では、日本語スキーマから離れ、英語スキーマを身につけるための知識を具体的に伝授した。例えば、*swagger*（胸を張ってずんずん歩く）という動詞。日本語は動作の様子を副詞や副詞句で表現するため、日本語の枠組みで捉えると「歩く」の意味が強く記憶に残る。これが語彙（ごい）を増やす妨げになりうる、などとアドバイスする。

自身が高校まで学んだのは「受験英語」。米国の大学院留学時代は、英語でレポートを書くのに必死だったと振り返り「今も、英語学習者として苦労している」と語る。楽に英語が身につくことを売り文句にする教材もあるが、体験も踏まえ「手軽に勉強しようと思ったら、英語学習は挫折する。簡単な言語なんてない」と諭す。

英語学習者へのメッセージを尋ねると「A journey of a thousand miles begins with a single step」（千里の道も一歩から）と返ってきた。「一歩一歩、ゆっくりと、時には立ち止まってもいいから進むことで、英語も他のことも、達人への道が歩めるのではと思います」<文・屋代尚則（写真は慶応義塾大提供）>

毎日新聞